

## 第1号議案 名誉会員の推薦（案）

長年にわたり、助産業務に功績があり日本助産師会の活動に貢献された次の6名を名誉会員として推薦したい。

### 1 星<sup>ほし</sup>イシ<sup>いし</sup>（93歳）福島県

#### 1. 長年にわたり助産業務の向上に尽力された功績

氏は、昭和17年川崎市の産婆看護婦学校を卒業後、東京都内の病院に看護婦として勤務し、終戦後地元の町役場で保健婦第一号として活躍した。

その経験を活かし、昭和23年に結婚を機に助産院を開業。第一次ベビーブームの時代を新産婆として活躍した。それまでの風習を打破し新しい知識と技術を導入して、清潔で安全な出産へと替えていった。しかしその後、出産は施設分娩へと急速に変化し、昭和50年の分娩介助が最後となった。助産所開業からの27年間で、取り扱った分娩件数は約7,000件である。

93歳になった現在も、町内を歩くと「産婆さん」と声をかけられるなど、地域住民に慕われ続けている。

#### 2. 長年にわたる地域母子保健及び地域の社会福祉に尽力した功績

氏は、昭和23年助産所開業と同時に町の民生委員を務め、75歳の定年まで50年間、地域住民の相談支援を行ってきた。

また昭和32年から平成9年まで、保健所の新生児訪問委託を受け、40年間の長きにわたり母子の健康と健やかな成長を見守り続けてきた。

#### 3. 長年にわたり日本助産師会会員として尽力している功績

氏は、昭和35年(社)日本助産師会福島県支部設立と同時に入会し、現在までの57年間、会員として会の存続と発展に寄与し、後輩の育成を見守り続けている。

特に昭和58年から平成10年までの約15年間、地区会会長として会の活動を支え続けて来た。現在も助産院の診察室や器具・記録等を保管し、後輩に語り伝えるなど、助産師の役割を示し続けている。

## 2 佐々木 美よ江 (88歳) 東京都

昭和 39 年 東京都練馬区に助産所を開設された。

昭和 50 年より地域の新生児・妊産婦訪問指導員に携わり地域の母子保健の向上に努めてきた。

地域での活動に対して、昭和 61 年、平成 2 年と 2 回練馬区長より感謝状を授与された。

東京都助産師会では、教育委員長、会計、副支部長として会の発展に努めている。また一般社団法人、公益社団法人の取得にむけ組織の基盤づくりに尽力している。日本助産師会の選挙管理委員長も 2 期務めている。

これまでの功績が認められ、東京都功労賞（平成 10 年）、厚生労働大臣表彰（平成 14 年）、日本助産師会会長表彰（平成 16 年）を受賞、平成 18 年春には瑞宝単光章を受章した。現在も助産師の育成や助産師会の発展に貢献している。

以上の功績により、日本助産師会名誉会員としてここに推薦する。

## 3 三井 政子 (83歳) 岐阜県

昭和 29 年看護婦に次いで助産婦の資格を取得後、総合病院に就職。後嫁先の助産院で約 10 年間開業助産師業務に従事し、約 3000 例の出産を援助した。

昭和 42 年地方行政に携わった後、岐阜県保健婦助産婦学科創設し、昭和 50 年京都大学医療技術短期大学特別専攻科に移動。助産師教育に対する思いは常に熱く、専門職としての自律を求め助産婦学校（京大医療短大専攻科、岐阜医療短大専攻科）を開設した。

また各種学校から短期大学への変革期の開設（岐阜大学）、学位授与機構のための開校 2（名古屋市立看護大学専攻科、岐阜医療短大専攻科）と先駆的業務に携わり教授職を務めた。全国助産師協議会においても理事や、委員活動など業務の推進に指導的役割を果たした。

職能団体においては、社団法人日本看護協会において助産師職能の設置に尽力し赴任所属県の助産師職能理事を務めた。また社団法人日本助産師会の理事、教育委員長など歴任した。

岐阜県においては、平成 10 年会員数の落ち込みの中、会則の改正を行い本部と同じ助産所部会、保健指導部会、勤務助産師部を位置付けて各部長を副支部長として活動専門部会の強化を図った。

平成 16 年 20 の群支部に分割していた組織を 5 ブロックに再編成し本部と一貫した組織体制にする規約改正に尽力した。また平成 27 年には「日本助産師会岐阜県支部 90 周年記念誌」の委員長として歴史の変遷を世に出し、若い人の志気を高めた。

以上本会への永年の功績に対して名誉会員として推薦します。

#### 4 <sup>さかもと</sup> 阪本 <sup>みさお</sup> ミサオ (90歳) 奈良県

昭和 19 年に産婆資格を取得後、昭和 20 年に分娩技術の実践を助産師に学び、昭和 21 年に助産所を開業され、自宅分娩に関わった。取り扱った分娩数は 13 年間約で 2000 人である。車もなく、自転車やバイクで夜真っ暗な道を走ってお産に駆け付けた。

その後、昭和 34 年に助産師 4 名で開業した広陵共同助産院では、資金もなく 2 年間は無休で借金を返済しながら運営した。取り扱い分娩数は約 6000 人であった。

昭和 59 年、桶谷乳式乳房治療手技を学び、昭和 59 年に阪本母乳乳相談室を開業、乳房ケアを行った母親は 33 年間で約 8 万人に至る。

助産師会会員活動においては、副支部長、支部長を経験され、多大な貢献をされた。

現在も現役で母乳相談を月に約 30 人の母親の乳房ケアを実践している。

90 年の生涯を助産師として長年にわたりご活躍され、多くの母子の母乳哺育支援に携わられた功績は多大である。また、我々後輩への配慮もいつも気にかけていただき、助産師の大先輩として尊敬する。以上の理由により推薦する。

#### 5 <sup>のおの</sup> 南野 <sup>ちえこ</sup> 知恵子 (81歳) 山口県

##### 1. 助産師の地位、資質の向上への功績

①長年にわたり、病院勤務の間では助産師の模範となり後輩の育成に、教育の間では基礎教育だけでなく、助産師として人としての心を育てることに尽力されたことは、今でも出会った助産師には深く伝わっている。

②国会議員として国政の間では、助産師のための看護制度の充実、助産師の地位向上のため尽力された。それは日本の助産師のためだけでなく、アジアの助産師活動支援にも貢献、引退後も引き続き活躍されている。

##### 2. 母子保健の向上への功績

国会議員、法務大臣として、男女共同参画社会実現のため、女性が仕事と妊娠、出産、子育てのできる社会のため尽力された。

##### 3. 助産師のリーダーとして活躍

①国会議員としてはもちろんのこと、ICM の委員を始め多くの学会の会長、理事を歴任され、常に助産師、女性のために働かれている。

②松村志保子顕彰会の会長として活躍。長年母子保健に貢献された人や団体を表彰。毎年 3 月 8 日を「母子と助産師の日」と定め、産婆・乳母の祖神として崇敬される高忍日売神社(愛媛県伊予郡松前町鎮座)に全国各地の助産師が集い交流会を開催している。

4. 国政の場では、DV 防止法成立、性同一性障害者性別特例法の成立等多くの立法制定に尽力された。

以上のような功績によって、南野知恵子様を日本助産師会名誉会員候補者として推薦いたします。

## 6 <sup>たなべ</sup>田邊 <sup>えつこ</sup>悦子 (82 歳) 熊本県

<離島・過疎地における勤務助産師として>

昭和 26 年 8 月助産師資格取得後は施設勤務助産師として、福永産婦人科、大野産婦人科と両医師の下で正常分娩はもとより数々の異常分娩も実施する。両院とも天草の離島・過疎地での周産期の医療に従事し、また、戦後の公衆衛生事業として妊婦健診、乳幼児健診にも参加し母子衛生の向上に尽力する。

<離島・過疎地における開業助産婦として>

昭和 31 年から自宅出産の希望もあり、勤務の傍ら出張分娩を取り扱うようになる。院長の勧めもあり開業する。自宅分娩が主であった当時、開業地域は離島且つ道路の整備も不十分にて徒歩、自転車、バイク、又は船による移動であった。離島・医療過疎の当地において自宅出産(約 900 例)通算 10 年間幾多の緊急事態に遭遇しながらも、最低の条件下にありながらもその技術と才智を駆使し 1 例の死産も無く母子の生命の安全確保に尽力した。

<中核都市における看護管理勤務助産師として>

昭和 40 年頃から施設分娩の増加にともない熊本市の産婦人科において総婦長として勤務し、管理職・助産師として 31 年余勤務し助産業務に携わり約 4,100 例の分娩を取り扱った。

<中核都市における助産所開設>

平成 10 年総婦長の職を離れた後、氏を頼る母親たちに請われ、母乳育児・母子支援のために助産所を開設した。熊本市委託事業の母子訪問指導および母乳、育児、産後相談に応じ出張を行っている。

<熊本県・市助産師会における貢献>

熊本県助産師会会長、熊本市助産師会会長として熊本県の助産師の技術向上と専門性を高めるために教育研修を企画・運営し、助産師学生の臨地実習指導を担当し後輩の育成に尽力している。